耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
Kouhei@oh-Kouhei.org

皆さん、こんにちは。すっかり暖かくなりましたが、まだまだ朝晩は冷え込む日もあります。くれぐれもご自愛ください。

東日本大震災が発生してからひと月半が過ぎました。被災者の皆さんは辛く、不自由な生活を続けています。被災者の皆さんのために、それぞれのお立場で可能なことに是非取り組んでください。

困った時はお互い様。

日本人が本来持っている助け合いの精神を十分に発揮する局面です。よろしくお願いします。

四月二日（土）、三日（日）、僕も厚生労働副大臣として岩手県釜石市と宮古市に入り、避難所をお見舞いするとともに、現地の自衛隊員、医療介護関係者、労働局・ハローワーク職員の皆さんの激励に伺いました。

実際に見た津波被害の凄まじさは、まさしく筆舌に尽くし難い状況です。「どうしたらここまで破壊することができるのか」と不思議に思えるぐらいの凄まじさ。自然の威力を目の当たりにしました。被災地の復旧、復興に全力を尽くします。

津波は原子力発電所の事故も引き起こしました。緊急事態に直面した時の原発の鉄則は「止める」「冷やす」「閉じ込める」。今回の地震・津波では、原子炉を「止める」ことはできましたが、燃料棒を「冷やす」ことができなくなりました。

その原因は、津波によって冷却設備が破壊されたり、波にさらわれたからです。自然の威力はここでも恐るべき威力を示しました。

その結果、原発から放射性物質が放出され、野菜、牛乳、水道水、魚介類等に影響が及びました。

日本ではこれまで、食品や飲料水に対して放射性物質に関する規制は存在しませんでした。これほどひどい原発事故が起きることを想定していなかったからです。

そこで、厚生労働省は三月十七日に放射性物質に関する暫定規制値を公表し、検査を始めました。この暫定規制値は専門的・国際的な検討機関のチェックを受けた内容です。

規制値を超えた食品や飲料水は出荷制限や摂取制限をしています。したがって、市場やお店に並んでいるものは安心できる商品です。風評被害で苦しんでいる産地の皆さんを助けるためにも、今までどおり普通に買い物をして頂ければ幸いです。

困った時はお互い様。

頑張ろう日本。僕も全力で頑張ります。

※

かわら版執筆者 大塚耕平

1959年生まれ。日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。その後、旭ケ丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。2001年から参議院議員。現在２期目。地元覚王山に事務所を開き、故郷覚王山の地元振興と歴史・文化遺産の継承・復興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ１０年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了（学術博士）。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

鳩山内閣、第１次菅内閣で内閣府副大臣を務める。2011年１月、菅改造内閣の厚生労働副大臣に就任。